第26回 京都フランス音楽アカデミー 受講申込書

受講申込書は、右記アドレスからもダウンロードできます。 academie.institutfrancais.jp

氏名 ローマ字 / 性別 男 女	生年月日 （西暦）　年　月　日（　才） ※未成年の場合は、保護者の氏名、住所、捺印、同行の有無を明記した書面の添付が必要です。
現住所 〒 Tel　Fax E-mail（必須）	審査結果の通知先（現住所と異なる場合） 〒 Tel　Fax E-mail（必須）
学校名および学年、または出身学校名および職業	宿泊予約 □ 希望する　□ 希望しない
受講希望科目	過去にマスタークラスに参加したことのある方は、そのマスタークラス名
希望教授（ピアノとヴァイオリンの受講を希望する方のみご記入ください） 第1希望 第2希望 第3希望	受賞歴（コンクールなど）
音楽歴（学歴、演奏活動歴など）	京都フランス音楽アカデミー受講を希望する理由
これまでの指導者名、および現在の指導者名	備考

※受講申込書でご提供いただいた個人情報は、当アカデミーの事務手続きおよび案内状送付のみに使用します。個人情報は、ご同意なく第三者に開示・提供・預託することはありません。
※音楽歴と受賞歴は、別紙（書式自由、A4サイズ）に記載して添付してもかまいません。

ご 案 内

公開レッスン 3月26日（土）、27日（日）
アカデミーの授業は非公開であるため、期間中に各教授1回90分の公開レッスンを全クラス行います。
会　場　：　アンスティチュ・フランセ関西 稲畑ホール
聴講料　：　2,000円（1科目1教授につき）、7,000円（1日通し券）
聴講券　：　2016年1月下旬発売予定　※受講生は入場無料

受講生コンサート 4月3日（日）
各クラスから選ばれた優秀受講生（1クラス平均2名）のコンサートを開催します。
会　場　：　京都市立京都堀川音楽高等学校 ホール（予定）
入場料　：　無料

第26回 京都フランス音楽アカデミー アンサンブル・スペシャル・コンサート2016 3月31日（木）19時
アカデミーに招聘された教授陣によるコンサート。※受講生は無料でご招待
会　場　：　京都府立府民ホール"アルティ"
入場料　：　4,000円（一般）、3,000円（学生）
協　力　：　エラート音楽事務所（Tel. 075-751-0617）
チケット　：　2016年1月上旬発売予定

お問合せ・お申し込み先
京都フランス音楽アカデミー実行委員会事務局
Tel. 075-761-2114（火〜土 10:00〜18:00、日・月・祝休）｜ **Fax. 075-761-2169** ｜ Mail. academie@institutfrancais.jp
〒606-8301 京都市左京区吉田泉殿町8 アンスティチュ・フランセ関西
名誉会長：ティエリー・ダナ（駐日フランス大使）　実行委員長：シャルランリ・ブロソー（在京都フランス総領事、アンスティチュ・フランセ関西館長）

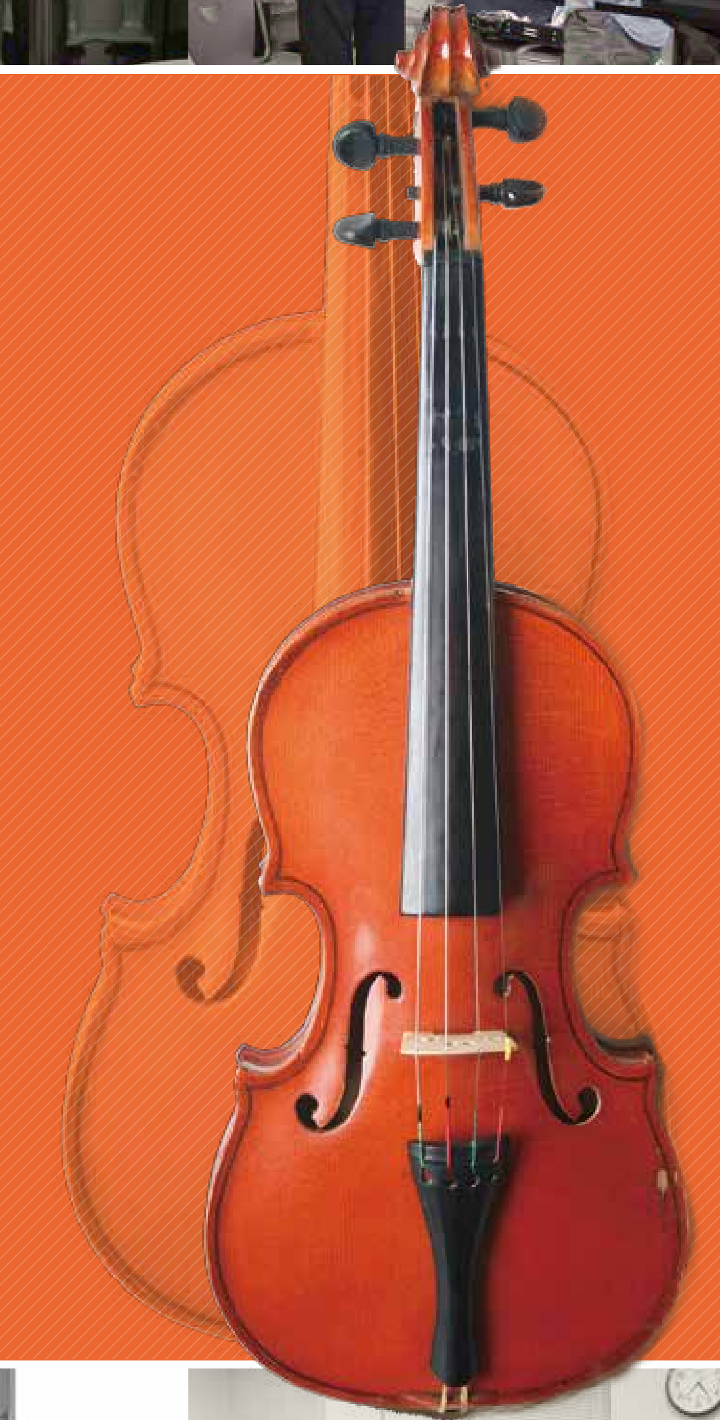
INSTITUT FRANÇAIS
アンスティチュ・フランセ関西
JAPON - KANSAI

INABATA & CO., LTD.　Rohm Music Foundation ローム ミュージック ファンデーション　école normale de musique de paris alfred cortot　sacem

第26回
京都フランス音楽アカデミー受講生募集

ACADÉMIE DE MUSIQUE FRANÇAISE DE KYOTO

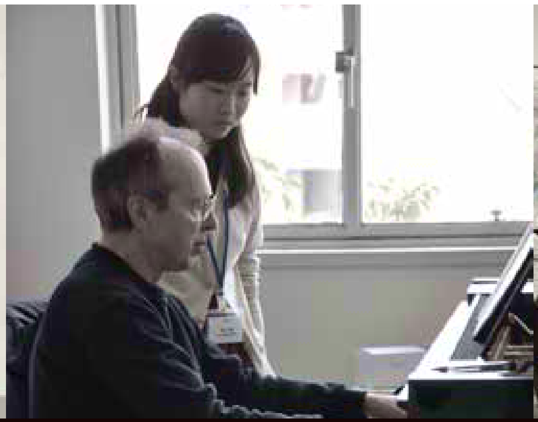
トップクラスの教授陣による指導で
あなたの音楽技術と感性を高めませんか。



2016年3月22日（火） - 4月3日（日）
（3月31日（木）は教授陣によるコンサートのため休講）

応募締切 ｜ 2015年12月15日（火） ※必着

主催：京都フランス音楽アカデミー実行委員会
後援：京都市、在日フランス大使館
助成：公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション
協賛：稲畑産業株式会社、パウエル・フルート・ジャパン、株式会社ビュッフェ・グループ・ジャパン、
　　　プジョー・シトロエン・ジャポン株式会社、SACEM（フランス著作権協会）
協力：華頂女子高等学校、京都市立京都堀川音楽高等学校、京都女子大学、
　　　ホテル日航プリンセス京都
教育提携：パリ・エコール・ノルマル音楽院



お問合せ：京都フランス音楽アカデミー実行委員会事務局　〒606-8301 京都市左京区吉田泉殿町8 アンスティチュ・フランセ関西
Tel. 075-761-2114　Fax. 075-761-2169　academie@institutfrancais.jp　academie.institutfrancais.jp

マスタークラス　募集人数｜各クラス12名 ＋ 指揮者特別集中講座 ｜14名

京都フランス音楽アカデミーは、フランス政府公式機関であるアンスティチュ・フランセ関西（旧関西日仏学館）が主体となって1990年より運営されている日仏音楽交流事業です。毎春、フランスよりトップクラスの音楽家が来日し、約2週間のマスタークラスを開講。その規模、歴史、水準の高さから、フランス国外で行われる最も重要なフランス音楽教育の場となっています。

声楽・ピアノ・弦楽器・管楽器クラス

レッスンはすべてマンツーマンで行われます。課題曲は設けず、各受講生の希望する曲を指導。各受講生は、期間中5回の個人レッスン（1回約1時間）を受講します。

フランス音楽留学　スカラシップ（奨学制度）

長期フランス音楽留学のチャンスに挑戦してみませんか。

パリ・エコール・ノルマル音楽院　スカラシップ

ピアノ・声楽・フルート・弦楽器クラス優秀受講生より最大3名

— 著名な音楽家が名をつらねる、伝統校への留学 —

2004年より、京都フランス音楽アカデミーはパリ・エコール・ノルマル音楽院と教育提携しています。アカデミーの優秀生にはパリ・エコール・ノルマル音楽院への留学の道が開かれています。スカラシップ対象者は、秋より1年間の授業に参加するための入学金と授業料が免除されます。

※入学手続きは同音楽院の規定に従って行っていただきます。別途諸費用はご自身での負担となります。

現代音楽特別公開講座
3月28日（月）～30日（水）

早くから活動が注目され、ジャン＝ウォルター・ゼリジャ奨学金やフランシス＆ミカ・サラベール財団賞、ピエール・カルダン作曲賞等、数多くの援助や栄誉を授与されている元ヴィラ九条山レジデントの作曲家イヴ・ショリス氏を招き、特別公開講座を開催します（全3回、1回2時間）。アカデミー受講生は無料で聴講できます。事前申し込み不要。

聴講料：2,000円（1回につき）、5,000円（全3回）
会場：アンスティチュ・フランセ関西　稲畑ホール

指揮者特別集中講座
3月25日（金）～27日（日）、29日（火）

ヤニック・パジェ
Yannick Paget

ヤニック・パジェ氏（大阪教育大学オーケストラ主席指揮者、関西シティフィルハーモニー交響楽団主席客演指揮者）が講師を務め、指揮者特別集中講座を開講します（全4日間、1日6時間）。初めて指揮を学ぶ方から経験者まで幅広く対応。

会場：ゲーテ・インスティトゥート鴨川
内容：楽曲分析、演奏解釈、オーケストラでの実践演習等
管弦楽：大阪教育大学教養学科・芸術専攻音楽コース
募集人数：14名

※定員に満たない場合、開講を中止することがあります。
（中止の場合は、決定後ご連絡します）
※講座内容、日程などが一部変更となることがあります。
※アカデミー受講生は、無料で聴講できます。事前申し込み不要。
※一般聴講生も募集（有料／右頁参照）。

募集要項

応募資格	13歳以上の音楽学生、演奏家。国籍不問。
指導内容	原則として12日間。各受講生は期間中5回の個人レッスン（1回約1時間）を受講。伴奏、通訳付き。受講生はどのクラスも聴講自由。
費　　用	入学金：　11,000円 授業料：150,000円（ピアノ、ヴァイオリン、フルート） 140,000円（声楽、ヴィオラ、チェロ、クラリネット） 指揮者特別集中講座：90,000円 指揮者特別集中講座聴講生：1日10,000円（入学金不要）
応募締切	2015年12月15日（火）必着
合格発表	2016年1月中旬頃に郵送にて本人に通知
会　　場	アンスティチュ・フランセ関西、ヴィラ九条山 他
練習場所	期間中、希望者に斡旋（要予約）
宿泊施設	希望者には合格後、予約申し込み書をお送りします。

受講申込み

下記の資料を当事務局までご送付ください。

①受講申込書：音楽歴と受賞歴は、別紙（書式自由、A4サイズ以内）に記載して提出してもかまいません。

※指揮者特別集中講座希望の方は、仏文か英文の履歴書（音楽歴含む）も提出すること。（聴講生は、受講申込書のみの送付で結構です）

②音楽歴を補完する下記の資料

●音源（必須）：15分以内の演奏を録音した音楽用CD。曲目自由（ただし声楽クラス希望の場合、モーツァルトのオペラのアリアから1曲と、自由曲1曲）。氏名・曲名を記入すること。CDプレーヤーで再生が可能かどうか必ず確認してからお送りください。CD以外の音源は受け付けられません。

※指揮者特別集中講座希望の方は、下記のうちいずれか1つまたは両方を提出すること。
- 指揮の様子が分かるDVD（アカデミー事務局のメール宛にデータでの送付も可）
- ご自身の演奏を録音した音楽用CD

●その他の資料（任意）：推薦状やプレス記事、コンサートちらしなど（A4サイズに収めること）。

③未成年者の場合は、保護者の氏名、住所、捺印、同行の有無を明記した書面を添付のこと。

※音源、DVD、添付資料はお返ししません。

送付先 ▶ 京都フランス音楽アカデミー実行委員会事務局
〒606-8301　京都市左京区吉田泉殿町8　アンスティチュ・フランセ関西

教授紹介　PROFESSEURS

声楽

ジャン＝フィリップ・コルティス
Jean-Philippe Courtis
パリ・エコール・ノルマル音楽院教授

パリ・エコール・ノルマル音楽院にて指揮を学び、アミアン地方音楽院にて、声楽で1等賞、オーボエでパリ市賞1位を受賞。その後パリ国立高等音楽院にて声楽とオペラでそれぞれ1等賞を獲得した後、エクサン・プロヴァンス音楽祭にて初演を飾る。その後はフランス国内、及び世界各国の歌劇場から招かれ、リヨンでは、「ペレアスとメリザンド」（ジョン・エリオット・ガーディナー指揮）、「ロドリーグとシメーヌ」（ケント・ナガノ指揮）、モンペリエでは、ジャコモ・マイアベーア「ユグノー教徒」、ジュネーヴではアルテュール・オネゲル「火刑台上のジャンヌ・ダルク」、ギュスターヴ・シャルパンティエ「ルイーズ」、エクトル・ベルリオーズ「ベンヴェヌート・チェッリーニ」などに出演。ジュネーヴ大劇場でのロルフ・リーバーマンの初演作品「森」のルッジェーロ・ライモンディの代役を務め、大成功を収める。ジャン・イヴ・ダニエル＝ルシュールや、モーリス・オアナ、フィリップ・マヌリ等の作品の初演にも数多く出演。現在パリ・エコール・ノルマル音楽院とアミアン地方音楽院にて声楽の教鞭をとる。

ピアノ

ピエール・レアク
Pierre Réach
パリ地方音楽院教授

世界各地での演奏活動、マスタークラスを行う他、バニエール・ドゥ・ビゴールのピアノ・ピックフェスティバルや、ヴィラセカフェスティバルの設立に携わるなど幅広く活躍。イヴォンヌ・ルフェビュール、イヴォンヌ・ロリオ、マリオ・クルシオ、パウル・バドゥラ＝スコダ、アレクシス・ジギスムント・ワイセンベルク等の許で研鑽を重ね、オリヴィエ・メシアンコンクール第1位、エットレ・ポッツォーリ国際ピアノ・コンクール第1位、アルトゥール・ルービンシュタイン国際ピアノコンクール入賞など、数々の国際的なコンクールに入賞。NHK交響楽団や、KBS交響楽団、フランス放送フィルハーモニー管弦楽団など世界的なオーケストラと共演。また室内楽への情熱により、ゲイリー・ホフマン、ジェラール・プーレ、ピエール・アモイヤル、クリストフ・ヘンケル、ジャン・フェランディス、ブルーノ・パスキエ、ホアン・マルティン・ローヨ等と共演。バッハ「ゴールドベルク変奏曲」は、世界的な評価を受け、多数のCDを録音。多くの国際コンクールで審査委員も務め、現在パリ地方音楽院およびカタルーニャ高等音楽院教授、上海音楽学院名誉教授として教鞭を執る。2015年1月、フランス芸術文化勲章シュバリエ受賞。

ヴァイオリン

レジス・パスキエ
Régis Pasquier
ヴァイオリニスト

幼少時より音楽に触れた早熟の才能は、12歳にしてパリ国立高等音楽院のヴァイオリンと室内楽部門で1位を獲得。14歳で渡米し、アイザック・スターン、ダヴィット・オイストラフ、ピエール・フルニエ、ナディア・ブーランジェに出会う。その後、ジノ・フランチェスカッティと、バッハの「2つのヴァイオリンのための協奏曲」を録音。世界各国の名指揮者と共演し、国際的な評価を不動のものとする。近年の録音は、ベートーヴェンとチャイコフスキーの協奏曲集やバーンスタインのセレナーデ、ヴァイルのヴァイオリン協奏曲Op.12。若手育成にも力を注ぎ、85年から11年までパリ国立高等音楽院教授を務めた。室内楽では、ペヌティエ-パスキエ-ピドゥー トリオによる演奏でラフマニノフのピアノ三重奏曲をリリースし、好評を博す。パガニーニのカプリース全曲をコンサートで演奏する数少ないヴァイオリニストの一人。使用楽器は1734年製グァルネリ・デル・ジュスの「クレモナ」である。

フルート

ジャン・フェランディス
Jean Ferrandis
パリ・エコール・ノルマル音楽院教授

モーツァルトのフルート協奏曲K314を演奏した際、アダージョを聞いたバーンスタインに「彼はまさにパン（牧神）である！」と言わしめるほど称賛を得たフルーティスト。リヨン国立音楽院のマクサンス・ラリユーのクラスで満場一致の1等賞を得て卒業後、プラハの春国際音楽コンクールでのグランプリなど、国際コンクールでの入賞多数。その後、シャンゼリゼ劇場（パリ）、アリス・タリー・ホール（ニューヨーク）、浜離宮朝日ホール（東京）、ウィグモア・ホール（ロンドン）、モスクワ音楽院、フェニーチェ劇場（ウイーン）など、各国のホールでリサイタルを行う。オネゲル、モーツァルト、シューベルト、C.P.E.バッハや上林裕子の作品をこれまでに録音している。コンサート活動と同時に指揮者としての活動や教育活動にも熱心で、現在、パリ・エコール・ノルマル音楽院とカリフォルニア州立大学フラトン校にて教鞭を取る。アジア、ヨーロッパ、オーストラリア、アメリカでは定期的にマスタークラスでの指導も行う。

ピアノ

ジャン=マルク・ルイサダ
Jean-Marc Luisada
パリ・エコール・ノルマル音楽院教授

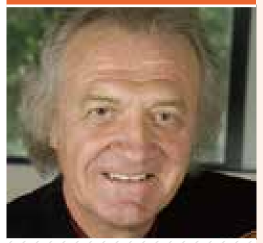
85年のショパン国際ピアノコンクール入賞以来、国際的に活躍するピアニスト。シャルル・デュトワ、マレク・ヤノフスキ、佐渡裕、ユーディ・メニューイン、ミシェル・プラッソンら著名な指揮者や、ロンドン交響楽団、フランス国立管弦楽団、NHK交響楽団などのオーケストラと共演。ヨーロッパの多数の音楽祭に定期的に招かれるほか、各地の主要ホールで演奏活動を行う。ピアノを学び始めたのはドゥニーズ・リヴィエールの下であり、続いてパリ国立高等音楽院でピアノをドミニク・メルレに、室内楽をジュヌヴィエーヴ・ジョワ＝デュティユーに師事した。また、パウル・バドゥラ＝スコダやニキタ・マガロフ、ミロシュ・マギンらの指導も受けた。こうした巨匠達から得た教えを、現在はパリ・エコール・ノルマル音楽院や多数のマスタークラスで、自身の弟子たちに伝えている。ディスコグラフィは多彩であるが、作曲家ではショパンを特に好んでおり、その録音は常に確固たる評価を得ている。

ヴァイオリン

オリヴィエ・シャルリエ
Olivier Charlier
パリ国立高等音楽院教授

10歳でパリ国立高等音楽院に入学し、ナディア・ブーランジェ、ユーディ・メニューイン、ヘンリク・シェリングに師事。ミュンヘン国際音楽コンクール、モントリオール国際コンクール、シベリウス国際ヴァイオリン・コンクール、ロン＝ティボー国際コンクールなどで次々と受賞を重ねる。フランス国立管弦楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団をはじめ、世界各国のオーケストラとの共演で国際的なキャリアを築く。幅広いレパートリーを誇り、ベートーヴェン、シューマン、メンデルスゾーン、モーツァルト、ヴィヴァルディ、グリーグ、サン＝サーンス、ラロからデュティユーの「夢の木」、グレグソン、ジェラール、スコットの協奏曲まで、積極的にレコーディング活動を行う。若き日に参加したマールボロ音楽祭以来、室内楽にも熱心で、プラード・カザルス音楽祭、ラ・フォル・ジュルネなど各地の音楽祭に定期的に参加。現在、パリ国立高等音楽院教授。

ヴィオラ



ブルーノ・パスキエ
Bruno Pasquier
パリ・エコール・ノルマル音楽院教授

43年生まれ。61年にパリ国立高等音楽院で1等賞を獲得。65年ミュンヘンのARD国際コンクールで優勝。65年～85年、パリ・オペラ座管弦楽団の首席ヴィオラ奏者、85年～90年、フランス国立管弦楽団の首席ヴィオラ奏者。豊かで美しく力強い音色によって、世界で最も才能あるヴィオラ奏者のひとりと評せられている。ヴァイオリンのレジス・パスキエ（弟）とチェロのロラン・ピドゥーとともに弦楽三重奏団を結成。レコード録音では、76年にディスク大賞、77年にフランス・ディスク・アカデミー大賞など多数の賞を受賞。様々な制作にも携わり、08年、ラジオ・フランスにて映画「青いパパイヤの香り」や「夏至」の音楽を担当したトン=ツァ・ティエのヴィオラ・コンチェルトを演奏。数々の国際アカデミーでも教えており、72年よりパリ国立高等音楽院にて教鞭をとる。レジオン・ドヌール勲章シュヴァリエ章、芸術文化勲章オフィシエ章受章。14年秋よりパリ・エコール・ノルマル音楽院教授。

クラリネット

フローラン・エオー
Florent Héau
パリ地方音楽院教授

優れたフランス流派クラリネット奏者の1人として、輝かしい伝統を世界中に伝えるべく演奏活動および教育活動を行っている。パリ国立高等音楽院でミシェル・アリニョンのもとで学び、数々の国際的なコンクールで第1位を獲得。室内楽にはとりわけ精力的に取り組み、ルノー・カピュソン、ジェラール・コセ、アンリ・ドゥマルケット、アンヌ・ガスティネル、ミシェル・ベロフらと共演するほか、ソリストとしては、ヨーロピアン・カメラータ、パリ室内管弦楽団、ブルターニュ管弦楽団、ポーランド放送室内合奏団、プラハ室内管弦楽団等と共演。また、ティエリー・エスケシュやフィリップ・エルサンら現代音楽の作品も初演している。パリ国立高等音楽院でミシェル・アリニョンのアシスタントを務めた後、リュエイユ=マルメゾン地方音楽院教授を経て、現在はパリ地方音楽院教授として後進の指導を行う。その指導力が評価され、ヨーロッパ各国やラテンアメリカ、アジアのマスタークラスに定期的に招聘されている。

ピアノ

ジョルジュ・プルーデルマッハー
Georges Pludermacher
ピアニスト

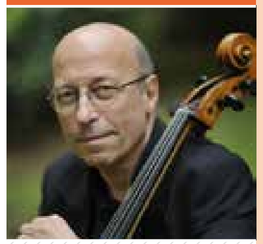
3歳でピアノを始め、11歳で入学したパリ国立高等音楽院ではリュセット・デカーヴ、ジャック・フェヴリエらに師事。ヴィアンナ・ダ・モッタ国際ピアノコンクールとリーズ国際ピアノコンクールで第2位、79年ゲザ・アンダ国際コンクール優勝。ソリストとしてゲオルク・ショルティはじめ多くの指揮者と共演する一方、ナタン・ミルシテインらとの共演により室内楽への愛着も深める。ドビュッシーのエチュードの演奏でル・モンド・ドゥ・ラ・ミュジーク誌賞、ディアパゾン誌賞、フランス・ディスク・アカデミー大賞を受賞した他、ベートーヴェンの「ディアベリ変奏曲」でシャルル・クロ・アカデミー大賞受賞。98年、4番目のペダル「ハーモニック・ペダル」を備えたピアノでベートーヴェンのピアノソナタ全曲をライヴ録音。最新録音は、自身の編曲によるピアノ・ソロ版のストラヴィンスキー「春の祭典」。13年、東京でベートーヴェンのピアノソナタ全曲演奏会を行う。元パリ国立高等音楽院教授。

ヴァイオリン

シルヴィー・ガゾー
Sylvie Gazeau
パリ国立高等音楽院教授

ニース地方音楽院で学んだ後、パリ国立高等音楽院で65年にヴァイオリンで、67年に室内楽でそれぞれ1等賞を受賞。同年のマリア・カナルス・バルセロナ国際音楽演奏コンクールと翌68年のカール・フレッシュ国際ヴァイオリン・コンクールで第2位。70年、インディアナ大学でヘンリク・シェリングとジョーゼフ・ギンゴールドに師事し、ギンゴールドのアシスタントとなる。79年、フランスでエネスコ賞の「年間優秀ヴァイオリニスト」に選出された。マールボロ音楽祭を始め各地の音楽祭に出演するほか、ロンドンのメロス・アンサンブルでの第1ヴァイオリンや、ピエール・ブーレーズのアンサンブル・アルテルコンタンポランではソロ・ヴァイオリン奏者を務めた。85年、パリ国立高等音楽院ヴァイオリン科教授に就任。98年より、同音楽院教育部門のヴァイオリン指導法教授。ヴァトロ・ランパル・ヴァイオリンコンクールでは芸術監督を務める。

チェロ



ロラン・ピドゥ
Rolqnd Pidoux
パリ・エコール・ノルマル音楽院教授

パリ国立高等音楽院を卒業。ジャン・ユボーと、ジョセフ・カルヴェに師事し、ソリストとしての活動と同時に、室内楽の活動にも精力的に取り組む。68年に、ジャン＝ピエール・ヴァレーズと、後のパリ室内管弦楽団となるl'Ensemble Instrumental de franceを創設し、ヴィア・ノヴァ四重奏団にメンバーとして7年間参加したのち、パスキエ兄弟（レジス、ブルーノ）とともに、弦楽三重奏団パスキエ・トリオを結成。室内楽では、アイザック・スターンや、ピエール・フルニエ、ジャン＝ピエール・ランパル、ムスティスラフ・ロストロポーヴィチ等と共演。69年、パリ国立歌劇管弦楽団、78年～87年、フランス国立管弦楽団首席奏者。ピアニスト、ジャン＝クロード・ペネティエと再会後、レジス・パスキエとトリオを結成。88年から2012年まで、恩師のナヴァラを継いで、パリ国立高等音楽院の教鞭をとり、現在パリ・エコール・ノルマル音楽院教授。ジャン＝クロード・ペヌティエとともに、サフィール・レーベルよりリリースしたベートーヴェンのチェロとピアノのための作品全集は、フランスで絶賛される。

現代音楽特別公開講座

イブ・ショリス
Yves Chauris
作曲家

80年生まれ。パリ国立高等音楽院を卒業。彼のピアノとアンサンブルのための協奏曲《...solitude, récif, étoile...》は、2003年にジャン＝フレデリック・ヌーブルジェによって初演され、2008年、2010年にはフランソワ＝グザヴィエ・ロスの指揮でBBCウェールズ国立管弦楽団によって再演された。2010年、初めて弦楽四重奏《I hear bodies》をディオティマ弦楽四重奏団に、2012年、第2作品目になる弦楽四重奏《shakkei》をタナ弦楽四重奏団に創作。2014年1月には、アムステルダムのコンセルトヘボウにて、《Un minimum de monde visible》が、パブロ・ヘラス＝カサドの指揮で、アンサンブル・アンテルコンタンポランによって初演される。2008年から2010年まで、マドリードのカーサ・デ・ヴェラスケスに招聘、2011年には、ヴィラ九条山の招聘アーティストとして日本に滞在する。現在、フランス政府委託による、アンサンブル・シャージュの公演に向けての作品、及び、ニューヨークのカーネギー・ホールからの委嘱作品（ジャン＝ギアン・ケラス&アレクサンドル・メルニコフの公演）に取り組んでいる。